

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【園芸作物、東北農政局】

青森県 十和田おいらせ農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R8～R9）

- 3か所の既存のにんじん共同洗浄選別施設を1か所に再編集約し、洗浄選別施設と冷蔵施設の機能を強化する。
- 効率的な洗浄選別作業が可能となり、労働生産性の向上を見込むほか、冷蔵機能の強化により、高品質なにんじんの出荷が期待できる。

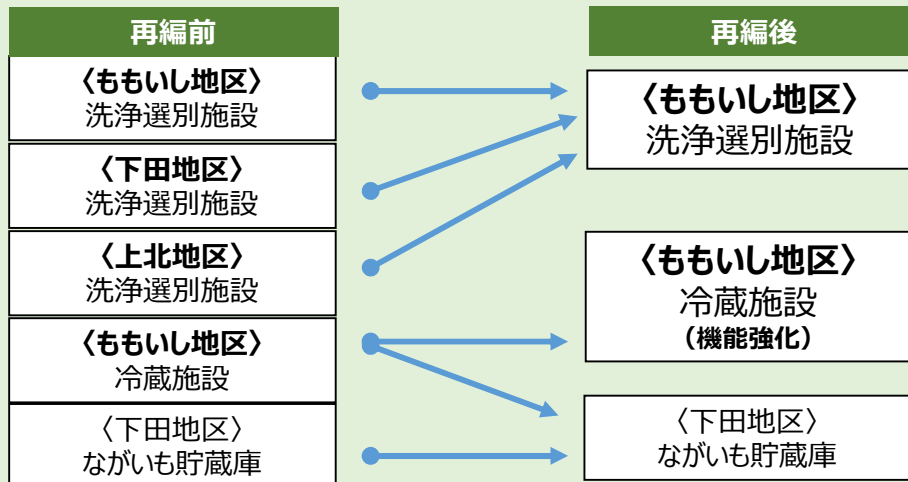
現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 青森県のおいらせ町や東北町上北地区は、県内有数のにんじん生産地域であり、生産者は減少傾向であるものの規模拡大する若手生産者も現れてきている。
- 3か所で洗浄選別を行っているが、選別機の老朽化が進んでいるほか、選別設備が地区によって異なるため選別方法にバラツキがあり有利販売につなげにくい。
- 洗浄選別施設の作業員の確保が困難となっている。

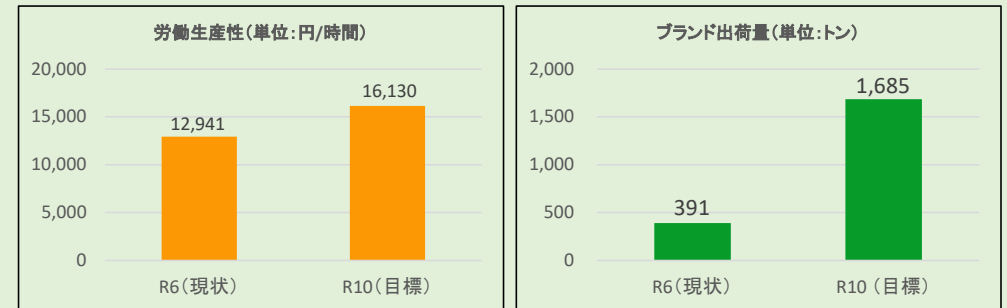
【再編集約等の内容】

- 既存の3か所のにんじん共同洗浄選別施設を1か所に再編集約、併せて冷蔵施設を再編し、機能強化。



再編集約・合理化等で期待される効果

- 洗浄選別施設を新設1か所に集約するとともに既存冷蔵施設の機能を強化することによって、少ない作業員で効率的な洗浄選別作業が可能になるほか、労働生産性の向上につながる。
- 余剰人員をブランド野菜の基準の適合確認に回すことができ、JAのブランド野菜「TOM-VEGE」の出荷量増加につながる。
- 洗浄選別施設の集約に合わせて栽培体系を見直し、計画的な収穫及び出荷が実現できる。



他産地へのメッセージ

- 昭和60年から洗浄選別施設を整備するなど県内有数のにんじん産地を形成してきたが、施設が老朽化し、維持管理費が負担になっていた。本事業の活用により、将来を見据えた持続可能かつ産地の発展につながる出荷関連施設の整備が実現する。
- 新設備の導入により維持管理費の圧縮が見込める上、計画的な作付体系と出荷体制を構築できると考えている。